



雫石町

防災マップ



 はじめに	1	 地震対策について	11
 警戒レベルを用いた避難情報	2	 火災対策について	12
 防災気象情報	3・4	 指定緊急避難場所	13
 わが家の防災対策	5・6	 雫石町全体図	14
 備蓄品および非常持ち出し品	7	 雫石町防災マップ	15～42
 避難行動ガイド	8	 岩手山・秋田駒ヶ岳火山防災マップ	43～46
 洪水・浸水害について	9	 雫石川洪水浸水想定区域図	47～50
 土砂災害について	10	 防災情報の伝達ルート 他	巻末

町民の皆様へ

みなさん一人ひとりが防災の主角

災害への備えは大丈夫でしょうか。近年、全国的に集中豪雨や台風等による被害が相次いで発生しており、また雨の降り方が局地化、集中化、激甚化しています。

これらを踏まえ、防災・減災のため、防災気象情報の改善や警戒レベルの導入などによる避難情報の改善がなされています。

今回作成した防災マップには、大雨による洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域のほか、約1,000年に1度の大雨を想定した洪水浸水想定区域を表しています。また、火山防災マップのほか、避難場所、災害の種類に応じた防災情報などを掲載しました。

防災マップで自宅の状況を事前に確認し、台風や豪雨の際に立ち退き避難が必要か検討しておきましょう。

突然やってくる災害に、みなさんの安全を守るため町では防災対策の充実に努めてまいりますが、被害を最小限に食い止めるには家庭での日頃からの防災対策が最も重要です。

ご家庭の目につくところにこのマップを備えて、みなさんで防災についてお話しされるなどご活用ください。

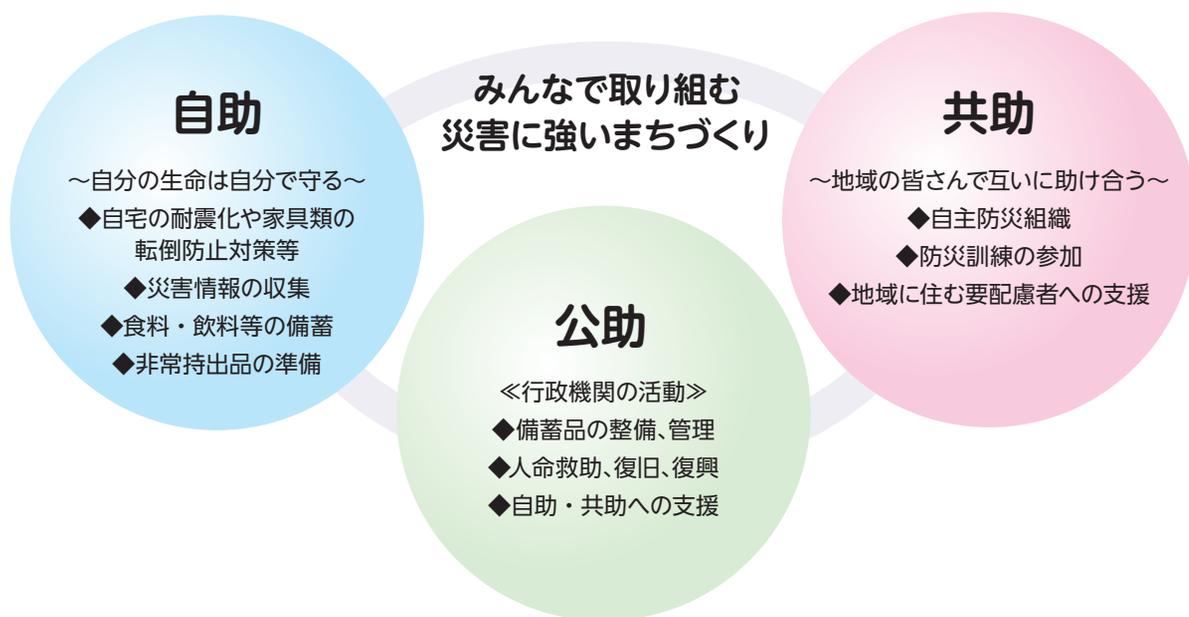
栗石町

地域の防災力を高める 自助・共助・公助

地震や洪水、台風等の自然災害による被害を最小限に抑えるためには、自分の命は自分で守る「自助」、地域で助け合う「共助」、行政の救助・支援「公助」の取り組みが必要です。

大規模災害時では、公助の機能に限界がありますので、「自助・共助・公助」が連携することにより、住民と行政が一体となって地域防災力を高めることが重要となります。

いざという時に備え、適切な行動ができるよう日常的に防災を意識しましょう。



家族みんなで防災会議

災害は家族が一緒にいるときに起こるとは限りません。いざというときに慌てず行動できるよう、本書を活用いただき、家族で普段から話し合っておきましょう。

<input type="checkbox"/> 家の中で一番安全な場所
<input type="checkbox"/> 家族一人ひとりの役割分担 ・安否確認、非常持出品・備蓄品のチェック、避難経路の確保、隣近所への連絡など
<input type="checkbox"/> 避難場所、避難経路 ・自宅と避難場所を確認し、マップに描き入れましょう ・避難経路を実際に歩いて確認しましょう
<input type="checkbox"/> 自宅付近の災害リスク、危険個所の確認
<input type="checkbox"/> 災害が起こった時の身の守り方
<input type="checkbox"/> 家族が離ればなれでいたときの連絡手段、集合場所
<input type="checkbox"/> 要配慮者(乳幼児、高齢者、障がい者、妊産婦など)のサポートと避難方法



！警戒レベルを用いた避難情報

近年発生した豪雨災害を教訓とし、国は令和3年5月に下記の通り「避難情報に関するガイドライン」を改訂し、水害・土砂災害について、市町村が出す避難情報と、国や都道府県が出す防災気象情報を、5段階に整理しました。

避難情報等 (警戒レベル)				河川水位や雨の情報 (警戒レベル相当情報)	
警戒 レベル	状況	住民がとるべき行動	避難情報等	防災気象情報(警戒レベル相当情報)	
				浸水の情報(河川)	土砂災害の情報(雨)
5	災害発生 又は切迫	命の危険 直ちに安全確保! ・警戒レベル5は、すでに安全な避難ができず命が危険な状況です。 ・警戒レベル5緊急安全確保の発令を待ってはいけません! ・ただし、警戒レベル5は、市区町村が災害の発生・切迫を把握できた場合に、可能な範囲で発令される情報であり、必ず発令される情報ではありません。	緊急安全確保	5 相当	氾濫発生情報 大雨特別警報 (土砂災害)
~~~~~ < 警戒レベル4までに必ず避難! > ~~~~~					
4	災害の おそれ高い	<b>危険な場所から全員避難</b> ・警戒レベル4避難指示は、立退き避難に必要な時間や日没時間等を考慮して発令される情報で、このタイミングで危険な場所から避難する必要があります。	避難指示	4 相当	氾濫危険情報 土砂災害 警戒情報
3	災害の おそれあり	<b>危険な場所から高齢者等は避難</b> ・「高齢者等」は障害のある人や避難を支援する者も含んでいます。 ・さらに、高齢者等以外の人にも必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難するタイミングです。	高齢者等避難	3 相当	氾濫警戒情報 洪水警報 大雨警報
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水 注意報	2 相当	氾濫注意情報 —————
1	今後気象状況 悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報	1 相当	————— —————

※市区町村長は、河川や雨の情報(警戒レベル相当情報)のほか、地域の土地利用や災害実績なども踏まえ総合的に避難情報等(警戒レベル)の発令判断をすることから、警戒レベルと警戒レベル相当情報が出るタイミングや対象地域は必ずしも一致しません。

避難指示等が発令されたら速やかに避難行動をとる必要がありますが、突発的な災害では、発令が間に合わないこともあります。避難指示等が発令されていなくても、警戒レベルに相当する気象情報を認識し、危険を感じたら早めに避難行動をとってください。大切なことは「自分で判断する」ということです。

**警戒レベル5**では既に災害が発生しています。  
また、必ず発令されるものではありません。

**警戒レベル3**や  
**警戒レベル4**で、  
地域の皆さんで声をかけあって、  
安全・確実に避難しましょう。



(ページ内の図表は内閣府・気象庁ホームページより抜粋、編集)

# i 防災気象情報

## 特別警報について

警報の発表基準をはるかに超える大雨や大津波等が予想され、重大な災害の起こるおそれ  
が著しく高まっている場合、気象庁は「特別警報」を発表し最大級の警戒を呼びかけます。

### ◆特別警報の発表基準

現象の種類	基準
大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合
暴風	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により暴風が吹くと予想される場合
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合
大雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合

表中の“数十年に一度”の現象に相当する降水量等の客観的な指標は気象庁ホームページで公表しています。

### ◆地震警報などを特別警報に位置づけます

現象の種類	基準
地震(地震動)	震度6弱以上の大きさの地震動が予想される場合 (緊急地震速報(震度6弱以上)を特別警報に位置づける)
火山噴火	居住地域に重大な災害を及ぼす噴火が予想される場合(噴火警報(噴火警戒レベル4以上) 及び噴火警報(居住地域)を特別警報に位置づける)

## 特別警報が発表されたら

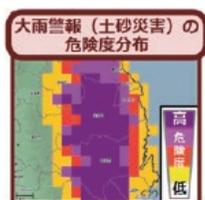
- ❗ 尋常でない大雨や暴風等が予想されています。
- ❗ 重大な災害が起こる可能性が非常に高まっています。
- ❗ ただちに身を守るために最善を尽くしてください。

## 警報の危険度分布について

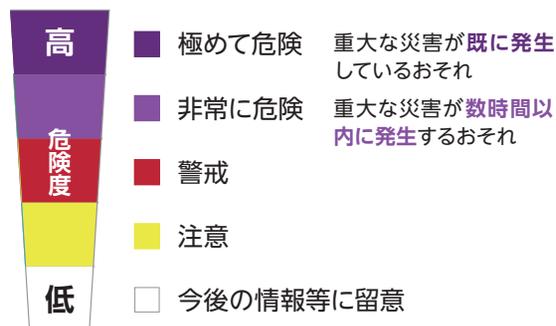
警報等が発表された自治体のうち、実際に土砂災害や水害発生の危険度  
が高まっている場所は、「危険度分布」を地図上の表記で確認できます。



■大雨警報(土砂災害)の危険度分布(気象庁)  
<https://www.jma.go.jp/jp/doshamesh/index.html>



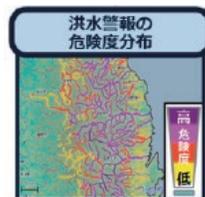
### 危険度を5段階に色分けして表示



※ 洪水警報の危険度分布の「今後の情報等に留意」は水色表示です。



■洪水警報の危険度分布(気象庁)  
<https://www.jma.go.jp/jp/suigaimesh/flood.html>



■大雨警報(浸水害)の危険度分布(気象庁)  
<https://www.jma.go.jp/jp/suigaimesh/inund.html>



(ページ内の図表は気象庁ホームページより抜粋、編集)

## 土砂災害警戒情報について

大雨警報の発表中に、命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況となったときに、対象となる市町村を特定して警戒を呼びかける情報で、都道府県と気象台から共同で発表されます。詳細な範囲については「危険度分布」で確認できます。しかし、特に警戒区域周辺にお住まいの方は、実際の周囲の状況や雨の降り方にも注意し、土砂災害警戒情報が発表されていなくても、危険を感じたら、迷わず自主避難を行いましょう。



## 記録的短時間大雨情報について

大雨警報の発表中に、数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨が観測された時に、気象台から発表される情報です。この情報が発表されたときは、お住まいの地域で、土砂災害や浸水害、中小河川の洪水害の発生につながるような猛烈な雨が降っていることを意味しています。実際にどこで災害発生の危険度が高まっているかを「危険度分布」も合わせて確認してください。



## 雨の強さと降り方

(気象庁ホームページより抜粋、編集)

予報用語	時間雨量	人の受けるイメージ	人への影響	屋内	屋外の様子	運転中
やや強い雨	10~20	ザーザーと降る	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	雨の音で話し声が良く聞き取れない	地面一面に水たまりができる	—
強い雨	20~30	どしゃ降り	傘をさしていてもぬれる	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく	道路が川のようになる	ワイパーを速くしても見づらい
激しい雨	30~50	バケツをひっくり返したように降る				高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる(ハイドロプレーニング現象)
非常に激しい雨	50~80	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)	傘は全く役に立たなくなる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	車の運転は危険	
猛烈な雨	80~	息苦しくなるような圧迫感がある 恐怖を感じる				

(1時間雨量：mm)

## 風の強さと吹き方

(気象庁ホームページより抜粋、編集)

予報用語	平均風速	おおよその時速	人への影響	屋外・樹木の様子	走行中の車	建造物	おおよその瞬間風速		
やや強い風	10~15	~50km	風に向かって歩けなくなる。傘がさせない。	樹木全体が揺れ始める。電線が揺れ始める。	道路の吹流しの角度が水平になり、高速運転中では横風に流される感覚を受ける。	樋(とい)が揺れ始める。	20		
強い風	15~20	~70km	風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。高所での作業はきわめて危険。	電線が鳴り始める。看板やトタン板が外れ始める。	高速運転中では、横風に流される感覚が大きくなる。	屋根瓦・屋根葺材がはがれるものがある。雨戸やシャッターが揺れる。			
非常に強い風	20~25	~90km	何かにつかまっていなくて立ってられない。飛来物によって負傷するおそれがある。	細い木の幹が折れたり、根の張っていない木が倒れ始める。看板が落下・飛散する。道路標識が傾く。	通常の速度で運転するのが困難になる。	屋根瓦・屋根葺材が飛散するものがある。固定されていないプレハブ小屋が移動、転倒する。ビニールハウスのフィルム(被覆材)が広範囲に破れる。	40		
	25~30	~110km							
猛烈な風	30~35	~125km	屋外での行動は極めて危険。	多くの樹木が倒れる。電柱や街灯で倒れるものがある。ブロック壁で倒壊するものがある。	走行中のトラックが横転する。	固定の不十分な金属屋根の葺材がめくれる。養生の不十分な仮設足場が崩落する。	50		
	35~40	~140km						外装材が広範囲にわたって飛散し、下地材が露出するものがある。	60
	40~	140km~						住家で倒壊するものがある。鉄骨構造物で変形するものがある。	

(風速単位：m/秒)

## 台風

(気象庁ホームページより抜粋、編集)

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大きさ	風速15以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km以上800km未満	強い	33以上44未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	非常に強い	44以上54未満
		猛烈な	54以上

(風速単位：m/秒)

# わが家の防災対策

## 家の中の安全対策

●事前に準備出来ているか、チェックしましょう。

### ！ 家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる

部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換える。



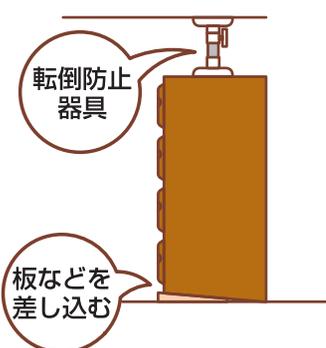
### ！ 寝室、子どもやお年寄りのいる部屋にはできるだけ家具を置かない

就寝中に地震に襲われると家具が倒れるおそれがあり危険。やむをえず置く場合は、なるべく背の低い家具にするとともに、寝ている場所に倒れないよう、また出入口をふさがないように、向きや配置を工夫する。



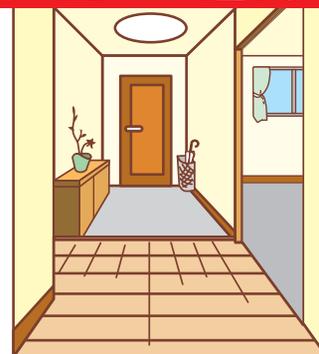
### ！ 家具の転倒を防ぐ

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全に。



### ！ 安全に避難するため、出入口や通路にものを置かない

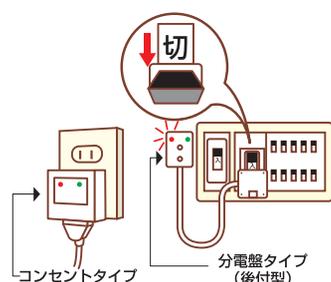
玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろなものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。



### ！ 電気火災発生の防止

地震による火災の原因の多くは電気が関連。電気ストーブや電気コンロの転倒や、停電復旧時の通電火災（破損した電気コードのショートによる出火など）がある。

電気火災を防ぐためには、感震ブレーカーの設置が有効。



### ！ 手の届くところに防災品を備える

夜間就寝時、停電になると周囲の確認ができず危険。

地震の場合はガラスが散乱したり、部屋に閉じ込められることもある。普段寝る場所から手の届くところに懐中電灯やスリッパ、ホイッスルを。

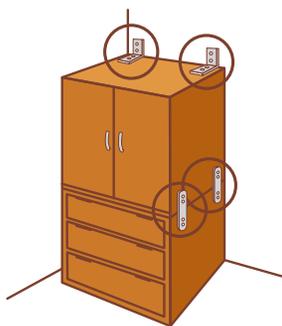


## 家具の転倒、落下を防ぐポイント

●事前に準備出来ているか、チェックしましょう。

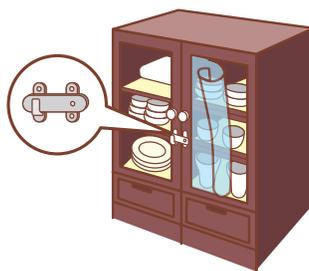
### タンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



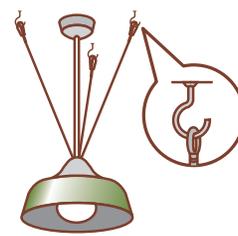
### 食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



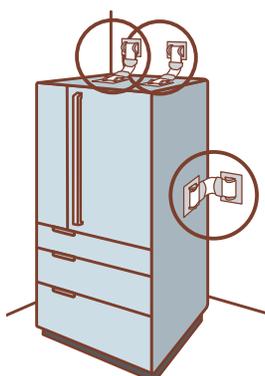
### 照明

チェーンと金具を使って数箇所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



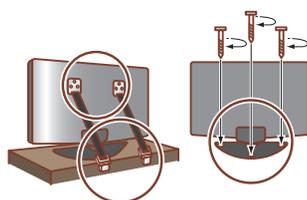
### 冷蔵庫

所定の取り付け場所(運搬用取っ手など)を転倒防止ベルトで壁や柱に固定する。



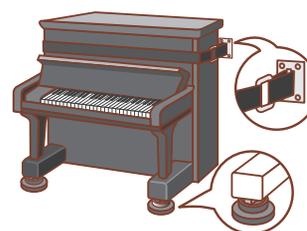
### テレビ

テレビ台とテレビを直接固定するのが有効。脚などに専用の取り付け箇所がある場合はボルト等で取り付け、そうでないものは転倒防止ベルトなどで固定する。



### ピアノ

本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取りつけた金具などで固定する。脚には、すべり止めをつける。



## 家の周囲の安全対策

●以下のポイントをチェックし、適切に補修を行ってください。

### 屋根

不安定な屋根のアンテナの補強。  
瓦のひび、割れ、ずれ、はがれがないか。  
トタンのめくれ、はがれはないか。

### 雨どい・雨戸

雨どいに落ち葉や砂が詰まっていないか。  
雨戸にガタツキやゆるみはないか。  
継ぎ目の外れや塗装のはがれ、腐りはないか。

### ブロック塀・門柱

土中にしっかりした基礎、控え壁のないものは補強。  
ひび割れや鉄筋のサビはないか。

### 外壁

板壁に腐りや浮きはないか。  
モルタルの壁に亀裂はないか。

### 側溝

側溝が詰まると、道路冠水や浸水の原因に。日頃からの清掃を。

### 窓ガラス

強風による飛来物などに備え、外側から板でふさぐなどの処置を。飛散防止フィルムを貼る、ひび割れ、窓枠のガタツキはないか。

### ベランダ

鉢植えや物干し竿など飛散の可能性が高いものは室内へ。

### 非常口の確保

通路や出入口には、避難の際の妨げにならないよう、できるだけ自転車やベビーカーなどの物は置かない。

### 家の周りのもの

プロパンガスのボンベはしっかり固定されているか。  
植木鉢などは整理整頓を。  
風に飛ばされそうなものは事前に屋内へ。

## 土砂災害の予防策

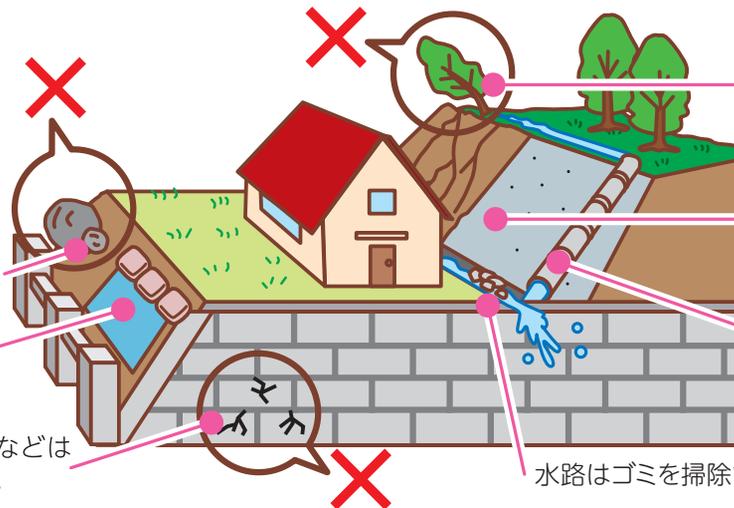
●がけや斜面の近くでは特に次のようなことを心がけましょう。

斜面の状態の変化に  
十分注意しましょう。

落ちそうな岩や土のかたまりは撤去する。

崩れそうな所は木や板の柵、石積をする。

こわれた石垣などは修理や補強を。



風でゆれる大きな木は地面をゆさぶられないよう枝を切る。

がけの危険な部分はビニールなどで覆い、雨水の浸みこみを防ぐ。

雨水をがけに流さないように水路を造る。

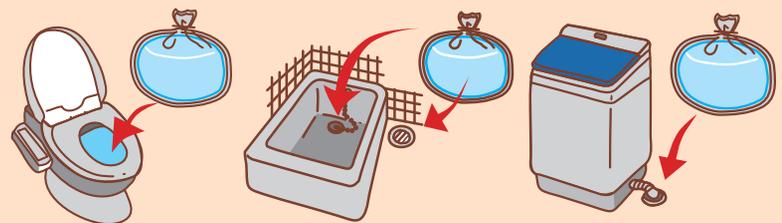
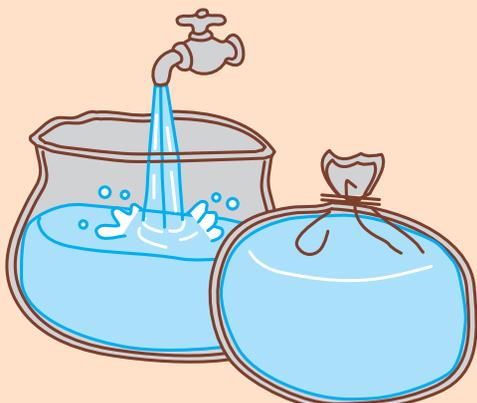
水路はゴミを掃除する。

## 住宅の浸水被害を防ぐには

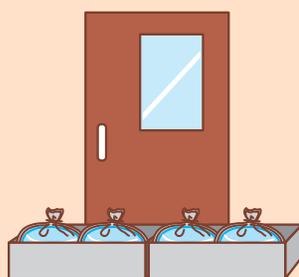
浸水深が小さいときは、家庭にあるものを使って、水の浸入口となるところを塞ぐことで水の侵入を減少させることができます。トイレなどの逆流防止にも有効です。  
※実施の際には避難の妨げにならないように気を付けてください。

### 「水のう」の作り方

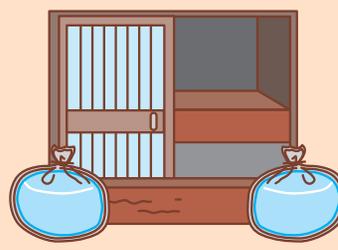
40L程度のごみ袋を二重にして半分程度の水を入れる  
空気を抜いて口をしぼる



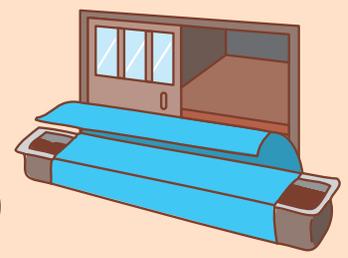
排水口からの逆流対策に



段ボール等に入れて並べる



長めの板状のものと組み合わせて止水板に



土を入れたプランターをレジャーシートなどで包むのも有効

# ① 備蓄品および非常持ち出し品

避難するときに最初に持ち出すのが「非常持ち出し品」。  
 災害直後から混乱が収まるまでの数日間、自給自足するための物資が「備蓄品」です。  
 以下は一例です。とくに非常持ち出し品は、持って逃げられる量にしましょう。(男性15kg 女性10kgが目安)

## 非常持ち出し品

●とっさの場合に持ち出せるようにリュックサックにつめておきたい

### 貴重品

- ・現金 ※公衆電話用に硬貨も
- ・印鑑
- ・家や車の予備鍵
- ・証書類のコピー  
(健康保険証、免許証、通帳、  
保険証書、権利書など)

### 情報収集用品

- ・携帯ラジオ ※予備電池も
- ・携帯電話(スマートフォン)の充電器
- ・モバイルバッテリー ※ライト付きが便利
- ・筆記用具

### 非常飲食品など

- ・非常食 ※軽く高カロリーのもの
- ・飲料水
- ・給水袋
- ・万能ナイフ ・ハサミ
- ・缶切り
- ・使い捨ての食器類

### 衛生用品

- ・救急セット ※常備薬も
- ・タオル
- ・マスク ・体温計
- ・トイレトーパー
- ・ウェットティッシュ
- ・ビニール袋
- ・下着類 ・携帯トイレ
- ・歯ブラシ等洗面道具
- ・耳栓 ・アイマスク ・つめ切り

### 安全用品

- ・懐中電灯 ※予備電池も
- ・ヘルメット ・防災ずきん
- ・手袋(軍手など)
- ・スリッパ
- ・笛やブザー ※居場所を知らせるもの
- ・マッチ ・ライター
- ・毛布 ・保温シート ・新聞紙
- ・使い捨てカイロ
- ・雨具



## 備蓄品

●少なくとも3日(できれば1週間)は自力で生活できるように準備

- ・飲料水 ※1人1日3ℓ
- ・食品 ※アルファ化米、長期保存食品など専用品の他、  
下記ローリングストックの活用を
- ・給水用ポリタンク ・バケツ
- ・カセットコンロ ・ガスボンベ ・ナベ等
- ・使い捨ての食器類
- ・食品用ラップ
- ・常備薬

- ・トイレトーパー
- ・災害用トイレセット
- ・からだ拭きシート
- ・水のいらないシャンプー
- ・ガムテープ
- ・ビニールシート
- ・ランタン ・予備電池
- ・燃料など



上記リストを参考に、特に乳幼児用品、高齢者用品等、災害時に配慮すべき方の用品も、家族構成に合わせて追加しましょう。

## 定期的に点検を!

いざというときに支障がないように食品類の賞味期限や  
 持出用品の不備を定期的に点検しましょう。

## ❖ ローリングストックについて

備蓄専用の保存食なども大切ですが、  
 普段から少し多めに食料品や日用品を買っておき、  
 使った分だけ新しく買い足していくことで、  
 常に一定量の備蓄を自宅に確保しておくことを  
 ローリングストックと言います。  
 日常生活の中に、非常備蓄を上手に組み込みましょう。

—対象品目の例—

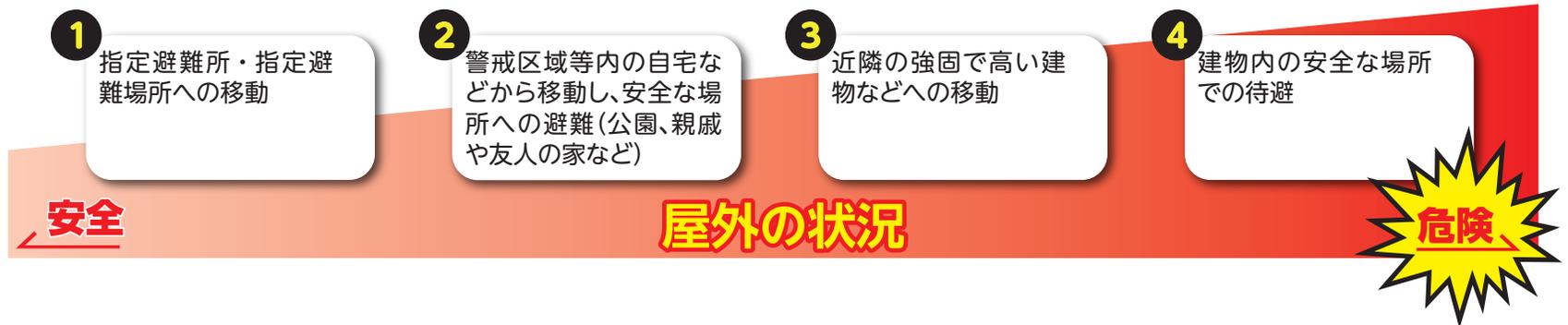
- ペットボトルの水や飲み物、レトルト食品、
- インスタント食品、お菓子、乾麺、缶詰、乾物、漬物
- カセットコンロのボンベ、ウェットティッシュ、
- トイレトーパー、食品用ラップ、ビニール袋、
- 乾電池、使い捨てカイロ



# 避難行動ガイド

## 避難とは…

必ずしも避難＝避難所へ行くことではありません。避難とは、災害から命を守るための行動です。災害に応じた指定避難所への移動が第一優先ですが、既に周辺で災害が発生している場合など、避難所までの移動が、かえって命に危険を及ぼしかねないと判断する場合は、「近隣の安全な場所」への避難や、自宅内での「屋内安全確保」を行います。



## ◆避難行動に関する行政発令の種類と、住民のみなさんの対応

避難情報は、災害の種類ごとに避難行動が必要な地域を示して発令しますが、地域やご家庭などの事情によって、「避難指示」を待たずに避難が必要と考えられる場合は、「自主避難」をお願いします。

区分	立ち退き避難など住民のみなさんの行動
高齢者等避難	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気象情報に注意を払い、避難の必要について考える。</li> <li>・ 立ち退き避難が必要と判断する場合は、その準備と立ち退き避難をする。</li> <li>・ <b>要配慮者(障がい者や高齢者で避難行動に時間がかかる人)は、この段階で危険な場所から避難をする。</b></li> </ul>
避難指示	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 避難指示が発令された際には、居住者等は危険な場所から全員避難する。</li> <li>・ 立ち退き避難することが、かえって危険と判断される場合は、屋内で安全を確保することも可能。</li> </ul>

※「**自主避難**」とは… 避難指示などを待たず、自主的に地区の集会所、親戚や友人の家などの安全な場所へ避難することです。その際は、出来るだけ必要な食糧、飲物、日用品などを持参するようにしてください。

※「**立ち退き避難**」とは… 自宅を離れて避難先へ移動すること。

## 避難行動の留意点

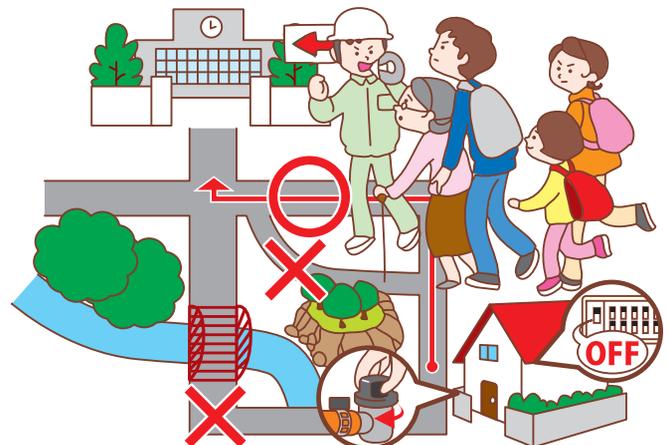
### ！ 避難するときの服装

- ヘルメット、帽子等をかぶる。
- 非常持ち出し袋はリュックサックに入れて背負う。(両手が使えるように)
- 長袖・長ズボンを着用する。
- 軍手や手袋をはめる。
- 靴は底の厚い、履き慣れたものを着用する。
- やむをえず夜間に避難をする際は懐中電灯を持つ。



### ！ 避難時のポイント

- 避難する前にもう一度火元を確認する。
- ガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを落とす。
- 持ち出す荷物は最小限にする。
- 近所の人に声をかけ、複数人で行動する。
- 避難する時は、狭い道やブロック塀、自動販売機のそば、川べり、ガラスや看板の多い場所を避ける。
- 決められた最寄りの避難場所へ徒歩で移動する。(自動車、自転車はできる限り使用しない)
- 子ども、障がい者、高齢者など避難行動要支援者がはぐれないよう配慮をしながら避難する。



上記は一般的な避難留意点です。各災害に応じた留意点も、個別ページでご確認ください。



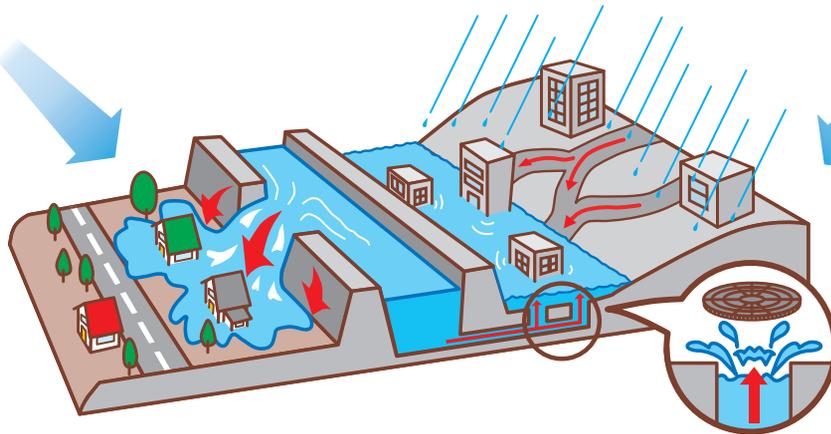
# 洪水・浸水害について

## 氾濫の種類

雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

### 外水氾濫

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を超える、あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水。氾濫が起きると一気に水かさが増すため、最大の注意が必要。

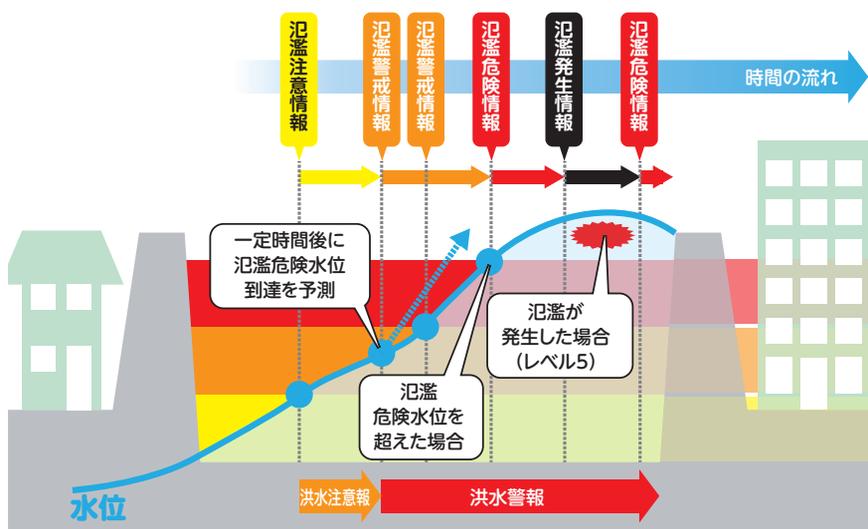


### 内水氾濫

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれず溜まって起きる洪水。的確なタイミングで警報や避難勧告を出すのが難しいため、注意が必要。

## 河川の危険水位と洪水予報

河川ごとに設定された以下の危険水位に応じ、河川管理者と気象庁から洪水予報が発表されます。自治体はこの情報を目安にして、避難に関する情報を発令します。



河川名	雫石川
観測所	春木場
氾濫危険水位(レベル4)	2.8
避難判断水位(レベル3)	2.10
氾濫注意水位(レベル2)	2.10
水防団待機水位	1.30

(単位：m)

## 避難行動のポイント、危険な場所

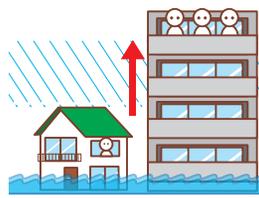
### ！ 浸水が始まる前に早めの避難を

氾濫水は勢いが強く、大人の膝程度の深さで歩行が困難となる。浸水してからの自宅外への避難は危険。気象予報や河川洪水予報などの情報をもとに、身の危険を感じたら自主的に避難を開始する。



### ！ 状況に応じた避難を

周囲の状況が危険で避難場所まで移動できない場合は、自宅や近隣の頑丈な建物のできるだけ高い階に避難する。移動途中であっても、危険を感じた場合は、近隣の建物のできるだけ高い階に退避する。



### ！ やむなく浸水の中を歩く際は

裸足、サンダル、長靴は厳禁。水中で脱げづらい紐靴などが適している。また、氾濫水は濁っているため、水面下が確認できない。長い棒などを杖替わりとし、側溝やマンホール、障害物に注意する。



### ！ 川や用水路に近づかない

降雨が続き不安に思っても、川や用水路、田畑の用水は見に行かない。やむを得ない場合は複数人で行動する。河川の様子を確認は、自治体などのライブカメラ情報を活用する。また、避難の途中も増水した川の近くを通るのは避ける。



### ！ 地下室、地下街は危険

地下にいる場合、地上の様子が把握しづらく、避難経路が限定される。また、地上が冠水すると、一気に水が流れ込んでくる場合もある。停電の可能性も高く、脱出が困難となる。



### ！ アンダーパスは危険

道路や線路の下をくぐるアンダーパスや地下道は、洪水の際、真っ先に浸水する。場所を把握し、迂回路を想定しておく。



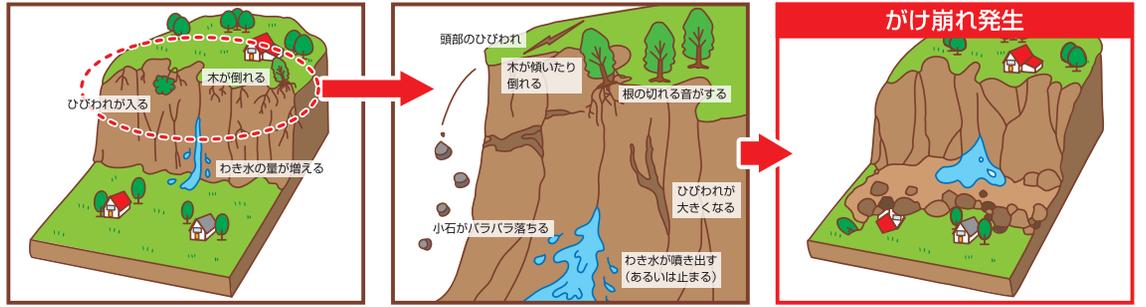


# 土砂災害について

## 土砂災害の種類

### がけ崩れ

地面にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。



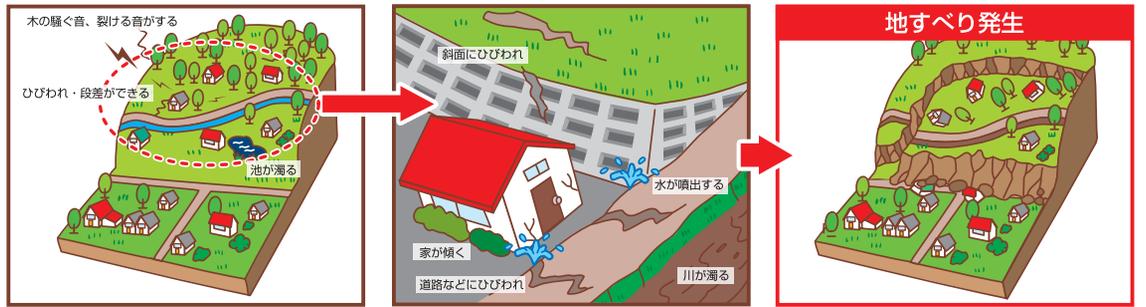
### 土石流

山腹・谷底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20~40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



### 地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土塊量が大きいので、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。

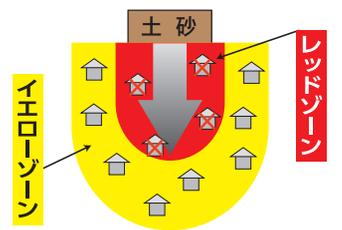


※上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるといえるものではありません。ふだんと違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

## 土砂災害の警戒区域

土砂災害防止法に基づき、都道府県は調査を実施し、土砂災害のおそれのある区域を以下の通り指定しています。

土砂災害 特別警戒区域(レッドゾーン)	建築物に破損が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域
土砂災害 警戒区域(イエローゾーン)	土砂災害のおそれがある区域



## 避難行動のポイント

土砂災害は突発性が高く、甚大な被害をもたらします。

上記の前兆現象は、経験則として土砂災害発生の前に感じられるものとして知られていますが、特に警戒区域内においては避難の猶予がほとんどないものと考え、「様子がおかしい」と感じたら、ただちに避難行動をとってください。

1 土砂災害警戒区域内、また指定が無くとも「谷の出口」や「がけの下」からは、いち早く退避する。

2 指定避難所までの移動が困難な際は、近隣の堅牢な建物の高層階へ避難する。



3 外出にも危険が伴う状況で、やむなく自宅に留まる場合は、2階以上の出来るだけ山側から離れた部屋に移動する。



# 地震対策について

## 地震発生時の時間経過別行動マニュアル



**！とにかく自分の身を守ろう！**

### 地震だ！ まず身の安全

大きな揺れを感じたり、緊急地震速報を受けたら、姿勢を低くし、頭を守り、揺れがおさまるまで待ちましょう。



2～5分

**！しっかり火の始末で、火災防止！**

### 大揺れがおさまった

台所やストーブなど火の始末をしましょう。避難の時は、電気のブレーカーを下ろし、ガスの元栓を閉めましょう。



5～10分

**！わが家の安全確認、確保！**

### 火の始末のあと

家族の身の安全を確認、確保し、災害情報、避難情報を入手しましょう。また、避難可能な出口も確保しましょう。



10分～半日

**！隣近所の安否確認、助け合い！**

### 外に出たあと

家具の下敷きになった人の救出や、消火活動を隣近所で協力して行いましょう。



半日～3日

**！2、3日は自分でしのぐ！**

### 避難後、数日間

地震発生後の数日間は、水、食料に加え、電気などの供給が途絶えます。この間、日頃から、生活必需品（非常用品）を準備し、自分でしのげるようにしておきましょう。

## 屋内にいた場合

### 家の中

- 揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
- 揺れがおさまったら火の確認はすみやかに（コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに）。
- 乳幼児や病人、高齢者など要支援者の安全を確保する。
- 裸足で歩き回らない（ガラスの破片などでケガをする）。

### デパート・スーパー

- カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。

### 劇場・ホール

- カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示を聞く。あわてずに冷静な行動をとる。

### 集合住宅

- ドアや窓を開けて避難口を確保する。
- 避難にエレベーターは絶対に使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。



## 屋外にいた場合

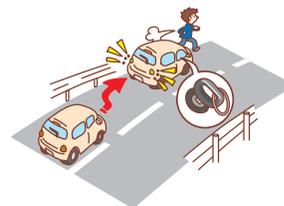
### 路上

- その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などの安全な場所に避難する。
- 近くに空き地などが無いときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。



### 車を運転中

- ハンドルをしっかり握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両等の通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- 避難が必要な時は、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。



### 海岸付近

- 高台へ避難し津波情報をよく聞く。注意報・警報が解除されるまでは海岸に近づかない。

### 電車などの車内

- つり革や手すりに両手でしっかりとつかまる。
- 途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外に出たり、窓から飛び降りたりしない。
- 乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。



# 火災対策について

## 初期消火の3原則

1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を知らせ、すみやかに119番通報を。初期消火で火事を消せなかったら、すばやく避難しましょう。

### 1 早く知らせる

- 「火事だ」と大声を出し、隣近所に援助を求める。声が出なければやかんなどを叩き、異変を知らせる。
- 小さな火でも119番に通報する。当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼む。

### 2 早く消火する

- 出火から3分以内が消火できる限度。
- 水や消火器だけで消そうと思わず、座布団で火を叩く、毛布で覆うなど手近のものを活用する。

### ◆火元別初期消火のコツ

#### 油なべ

あわてて水をかけるのは厳禁。消火器がなければ濡らした大きめのタオルやシーツを手前からかけ、空気を遮断して消火を。

#### 石油ストーブ

真上から一気に水をかけて消火(斜めにかけてと石油が飛び散って危険)。石油が流れてひろがっていくようなら毛布などで覆い、その上から水をかけて消火を。

#### 衣類

着衣に火がついたら転げまわって消すのも方法。髪の毛の場合なら衣類(化繊は避ける)やタオルなどを頭からかぶる。

#### 風呂場

風呂場からの出火に気づいても、いきなり戸を開けるのは禁物。空気が室内に供給されて火勢が強まる危険がある。ガスの元栓を締め、徐々に戸を開けて一気に消火を。

#### 電気製品

いきなり水をかけると感電の危険が。まずコードをコンセントから抜いて(できればブレーカーも切る)消火を。

#### カーテン・ふすま

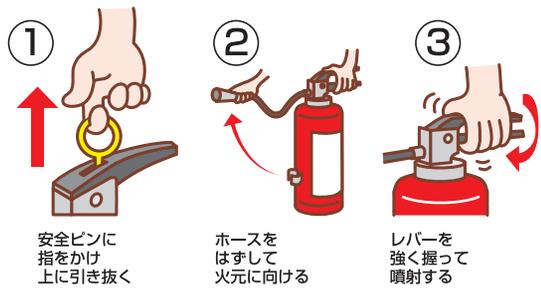
カーテンやふすまなどの立ち上がり面に火が燃え広がったら、もう余裕はない。引きちぎり蹴り倒して火元を天井から遠ざけた上で消火を。

### 3 早く逃げる

- 天井に火が燃え移った場合は、**消火の限界**。速やかに避難する。
- 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を絶つ。
- 一酸化炭素などの有毒ガスを含んだ煙を吸い込まないように低い姿勢でマスク・タオル等で口をふさいで逃げる。

## 消火器の使い方

粉末・強化液消火器の場合



### ◆消火器のかまえ方

- 風上に回り風上から消す。火災にはまともに正面から立ち向かわないように。
- やや腰を落して姿勢をなるべく低く。熱や煙を避けるように構える。
- 燃え上がる炎や煙にまどわされずに燃えているものにノズルを向け、火の根元を掃くように左右に振る。



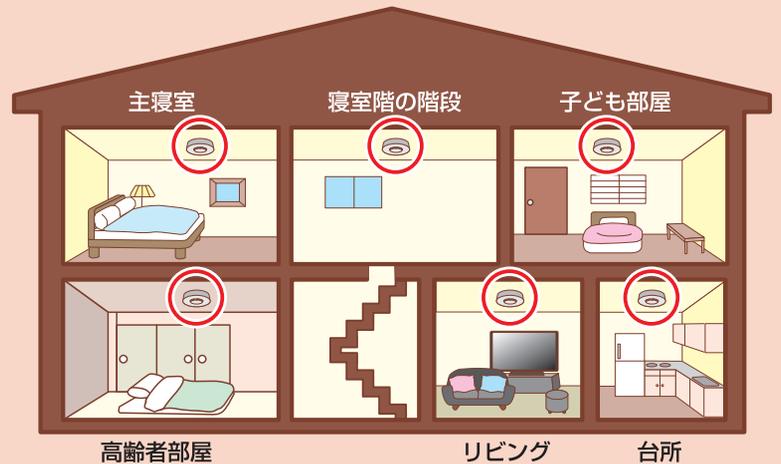
## ◆火災予防が一番!!

消防法の改正により、**住宅用火災報知機の設置が義務付けられました**。火災による死傷者を無くすためにも設置しましょう。

### 住宅用火災警報器の設置場所

- 寝室**…すべての寝室(子ども部屋や高齢者の部屋など就寝に使われている場合は対象となります)への設置が必要です。
- 階段**…寝室のある部屋の階段の天井などへの設置が必要です。
- 台所**…台所への設置も必要です。

注意：種類によって異なりますが、住宅用火災警報器の交換時期は、おおむね10年です。早めの交換をお願いします。



# 栗石町指定緊急避難場所

地図内では赤文字で表示しています (例) ①栗石小学校

番号	施設・場所名	住所	管理担当 連絡先	対象とする異常な現象の種類						地図掲載	
				洪水	崖崩れ、土石流 及び地滑り	地震	大規模な 火事	内水氾濫	火山現象	図番号	座標
①	栗石小学校	源大堂 50	019-692-2203	○	○	○	○	○	○	14	C3
②	栗石中学校	柿木 74-1	019-692-0321	○	○	○	○	○	○	14	C3
③	栗石高等学校	柿木 36-1	019-692-3254	○	○	○	○	○	○	14	B・C2
④	町営体育館	高前田 104	019-692-5030	○	○	○	○	○	○	14	B2
⑤	総合運動公園	高前田 104	019-692-5030			○	○		○	14	B2
⑥	栗石公民館	源大堂 71-5	019-692-3458	○	○	○	○	○	○	14	C3
⑦	中央公民館	上曾根田 114	019-692-4181		○	○	○		○	14	D3
⑧	アルペン記念公園	千刈田 77-1	019-692-6406			○	○		○	14	D3
⑨	廣養寺	源大堂 54	019-692-3032			○	○		○	14	C3
⑩	臨濟寺	下町 39	019-692-3351			○	○		○	14	D3
⑪	永昌寺	下町 139-1	019-692-2334			○	○		○	14	D4
⑫	青少年ホーム	千刈田 5-1	019-692-0611		○	○	○		○	14	D3
⑬	七ツ森小学校	七ツ森 16-240	019-692-0571	○	○	○	○	○	○	9	C2
⑭	旧大村小学校	南畑 14-2	019-692-6413	○	○	○	○	○	○	12	D4
⑮	旧南畑小学校	南畑 32-15-26	019-692-4181	○	○	○	○	○	○	10	F4
⑯	老人憩の家鶯宿荘	鶯宿 10-21-26	019-695-2526	○	○	○	○	○	○	10	F4
⑰	鶯宿グラウンド	南畑男助山 1-29	019-692-5030			○	○		○	10	E4
⑱	御所小学校	西安庭 41-152-1	019-692-2206	○	○	○	○	○	○	11	C2
⑲	御所公民館	西安庭 40-48-9	019-692-2214		○	○	○		○	11	B2
⑳	旧橋場小学校	橋場安栖 63-2	019-692-6413	○		○	○	○		7	E3
㉑	橋場保育所	橋場安栖 72-6	019-692-2336	○		○	○	○		7	E3
㉒	南農村公園	御明神石山 76-1	019-692-6405			○	○		○	8	B4
㉓	御明神保育所	御明神高八卦 20-2	019-692-2315	○	○	○	○	○	○	8	C4
㉔	御明神グラウンド	御明神高八卦 20-1	019-692-5030			○	○		○	8	C4
㉕	御明神公民館	上野上野沢 5	019-692-3228		○	○	○		○	8	D3
㉖	御明神小学校	上野上屋敷 26	019-692-3204		○	○	○		○	8	D3
㉗	旧上長山小学校	長山早坂 260	019-692-6407	○	○	○	○	○		6	B1
㉘	旧西根小学校	西根上駒木野 320-2	019-692-4181	○	○	○	○	○	○	6	A3
㉙	西根保育所	西根大宮 136-9	019-693-2223	○	○	○	○	○	○	6	A3
㉚	西山公民館	長山西寄内 95-1	019-693-3321	○	○	○	○	○	○	6	B3
㉛	西山グラウンド	長山猿子 98-1	019-692-5030			○	○		○	6	B3
㉜	西山小学校	長山羽上 81	019-692-2224	○	○	○	○	○	○	6	C5